

情報とコミュニケーション

情報科学の世界II

2016年度

只木 進一（工学系研究科）

情報の定義：辞書では

加算・非加算にも注意

- ▶ 事実(facts)：事の真実
- ▶ データ(data)：立論・計算の基礎となる既知の或いは認容された事実・数値。資料。与件。
- ▶ 情報(information)：或ることがらについてのしらせ。判断を下したり行動を起したりするために必要な知識。
- ▶ 知識(knowledge)：ある事項について知っていること。また、その内容。

情報の定義：辞書の記述を越えて

- ▶ 事実と事象
- ▶ データ
- ▶ 情報
- ▶ 知識

どういう区別

情報の定義例： オンラインショッピング

▶ 事実・事象

- ▶ 客が商品を購入する

▶ データ

- ▶ 購入者、購入した商品とその数、価格
- ▶ 何を検索した後に購入したか
- ▶ 何を記録するかは「知識」依存

▶ 情報

- ▶ 購入履歴
- ▶ 類似の購入履歴の顧客
- ▶ 意味づけが入る

▶ 知識・理論

- ▶ ○○のような商品を買う客は□□も買う
- ▶ 一回の注文で、平均△個の商品を買う

情報の定義例： 気象

- ▶ 事実・事象
 - ▶ 気象現象そのもの
- ▶ データ
 - ▶ 気温、気圧、風速、降雨量、雲の量
- ▶ 情報
 - ▶ データの時系列
 - ▶ データの相関

- ▶ 知識
 - ▶ データの関係から得られた理論
 - ▶ 大気の状態方程式
 - ▶ 天気予報

- ▶ 事象は中立的
- ▶ データ・情報は、知識依存
 - ▶ どういうデータを取得するか
 - ▶ データからどのような情報を読み出すか
- ▶ 知識
 - ▶ データ、情報から抽象化

コミュニケーション

Communication

- ▶ 社会生活を営む人間の間に行われる知覚・感情・思考の伝達。言語・文字その他視覚・聴覚に訴える各種のものを媒介とする。（広辞苑）
- ▶ The activity or process of expressing ideas and feelings or of giving people information. (Oxford Adv. Learner's Dict.)
- ▶ モノ同士、人とモノの可能性

コミュニケーションの多様な手段

- ▶ 音声、記号、動作など
- ▶ 媒体を介することもある
- ▶ 広い意味での**記号化**
 - ▶ 媒体に応じた

コミュニケーション過程の分析 送り手

- ▶ 伝えたいこと
 - ▶ 特定分野、特定内容
- ▶ 伝達方法の選択とそれに応じた表現
 - ▶ 言語、動作記号
- ▶ 伝達操作
 - ▶ 発音、動作
- ▶ 物理的伝達

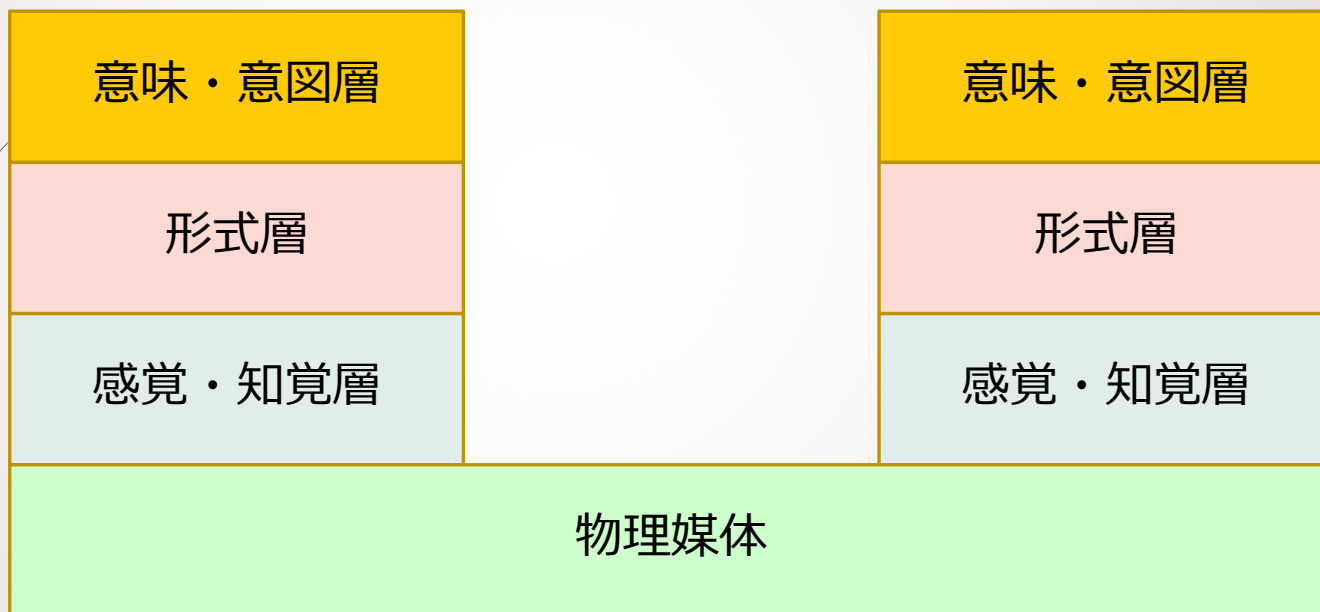


コミュニケーション過程の分析 受け手

- 物理的伝達
- 受信操作
 - 聴音、視覚
- 受信内容の記号化
 - 言語、動作記号
- 受信内容の理解
 - 特定分野、特定の内容



コミュニケーションの階層モデル



メッセージの理解

- ▶ 脳科学的理解
 - ▶ 知覚イメージと記憶イメージの関連付け
- ▶ 言語学的理解
 - ▶ 統語論、意味論、音韻論、語用論
- ▶ 記号学的理解
 - ▶ 記号、対象、解釈

課題

- ▶ コンピュータ関連の最大手企業であるIBMの社名は、何の省略であるかを調べなさい。
- ▶ 「Intelligence」の意味を辞書を使って調べなさい。